

熱性けいれんとは？ほとんどは心配ない!?

熱性けいれんとは、生後3カ月から6歳くらいまでの小児に起こる約38度以上の発熱に関連したけいれん発作で、小児の8%ぐらいに認められます。けいれんの原因となる頭の病変（髄膜炎、脳炎など）のないもので、ほとんどは5分前後で自然におさまり、予後良好です。しかし、中には発作がおさまらずに続くこと（けいれん重積）があります。発作回数は約60%が1回のみで、初回熱性けいれんを経験した小児の再発率は30%程度、3回以上反復する小児は9%程度といわれています。発熱に伴うけいれんで注意すべきことは、けいれんの原因となる異常を見逃さないこと、まれにあるけいれん重積に対応すること、そして一番重要なことは、けいれんの再発を予防することです。過去に一度でもけいれん重積を認めれば、予防する必要があります。

また、・生後1歳未満の発症、・親が熱性けいれんを起こしたことがある、という熱性けいれんの要注意因子をもつ小児で、過去に何度も熱性けいれんを起こした場合には、抗けいれん作用を持つ薬による予防を考えることがあります。ただし、解熱剤はけいれん予防には無効です。

初めてけいれん発作を見た時は、「このまま死んでしまうのではないか」と感じることもあると思います。しかし、ほとんどは良性で、後遺症を残さないので、けいれん予防に対して神経質にならずに、できるだけ起こさなければいい、という程度の理解で対応すれば良いと考えています。それ以外の心配に思われることは、小児科専門医にご相談ください。

平成24年12月

東川 幸嗣